

東原児童館が完成しました

旧東原児童館の老朽化および児童クラブで小学校高学年を受け入れるため、平成28年6月からやまゆり保育園の東側に建設していた東原児童館が完成しました。これにより平成29年度から児童クラブで高学年の受入れが始まり150人までの受け入れが可能となりました。今後、地域に根ざした子育て拠点施設として活用されます。



集会室



クラブ室



館庭

児童館の変更点について

平和台児童館の閉館に伴い町内の児童館は大林児童館と東原児童館の2館となり、以下の点が変更となります。

土曜日開館(2館のうち1館のみ開館します。)

- 4月～9月の開館は大林児童館
- 10月～3月の開館は東原児童館

「ひだまりっこ」開催曜日

- 東原児童館 毎週火曜日
- 大林児童館 毎週木曜日

問い合わせ先 町民課こども係 (32)3114



今月は、保健師の
嶋崎典子さんです。

●10ヵ月健診時に撮影した写真を
2ヵ月に分けて紹介しています。



4月は「未成年者飲酒防止強調月間」です

成長過程にある未成年の飲酒は、本人にとって身体的、精神的に大きなリスクがあるだけでなく、社会的にも大きな影響を与えます。

「身体の大きさは大人と同じぐらいだし、肉体的には自分はもう大人。だからお酒を飲んでも平気なはず。」とっていませんか？しかし、見た目は大人と変わりがなくても体は未完成でまだまだ成長中です。

法律でも未成年者の飲酒は禁止されています。それには5つの理由があります。

● 脳の機能を低下させます。

未成年でお酒を飲み始めると、これからという時期に、うつ病になったり、学習能力、集中力、記憶力の低下を起こすこととなります。

● 肝臓をはじめとする臓器に障害を起こしやすくなります。

成長段階にある未成年者はアルコールを分解する酵素の働きも未完成なため、大人にくらべ飲酒をすると短期間でさまざまな臓器の障害を起こす危険性が高まります。

● 性ホルモンに異常が起きるおそれがあります。

アルコールを与え続けたオスの子ネズミの実験結果から、思春期前からお酒を飲み始めると、二次成長が遅くなると警告する専門家もいます。

● アルコール依存症になりやすくなります。

長い間、大量にお酒を飲み続けていると、お酒を飲まずにいられなくなります。それがアルコール依存症で、お酒が切れてくるとイライラしたり、動悸、不眠などの精神症状がみられるようになります。治療法はただ一つ、断酒(お酒を絶対飲ませないこと)だけです。そして多くの場合、一生の断酒が必要とされています。

● 未成年者を守るために飲酒を禁ずる法律があります。

「未成年者飲酒禁止法」によって禁止されています。

親は子どもの飲酒を止めなければいけません。また、販売店や飲食店は未成年にお酒を売ったり、飲ませてはいけません。

— 断る勇気 —

誰からお酒を勧められても、自分自身を「大切にする」ために断る勇気を持ちましょう。